

(コラム) 想像力は社会を救う!?

明けましておめでとうございます。本年も引き続き「子供の居場所づくり事業」へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

令和のスタートとなった昨年は、「あおり運転」が社会では大きな話題となりました。車間距離をわざと詰めて走る車は、これまでも見かけてきましたが、最近、ハンドルを握っていて思うことは、年々、身勝手な運転をする車が増えているような気がします。そんな中、先日運転をしていると、交差点手前で真っ赤な外国車が急に目の前で割り込んできました。私も大人げなく前の車との車間を詰めようと思いましたが、こんなコラムを書いている手前、不本意ながら前を譲ることにしました。ところが、割り込みながら外国車の運転席の窓が開き、何か文句を言われるのかと思いきや、人のよさそうなご婦人が何度も頭を下げてきたのです。結局、私は身勝手な運転者と勝手に決めつけていただけで、その運転者は交差点手前で曲がらないといけない事に気づき、焦っていただけだったのかもしれない。

今回のエピソードを改めて考えてみると、自分の固定観念にとらわれずに、社会には自分の考えが及んでいない境遇や心理状態の人もいるのだと思えば、周りの車（運転者）の捉え方も少し変わるかもしれません。もし急いでいる時に自分より少し遅い車が前を走っていたら「邪魔をされている」と決めつけムツとするのではなく、「道を譲るタイミングを失っているのかも」などと想像力を働かせて、一旦冷静になる余裕を持つと、運転の疲れ具合も変わるかもしれませんね。

当事業の中でも、子供たちの社会の中で似たようなエピソードが時々起こります。取っ組み合いのケンカになった時に、お互いの言い分を聞くと、両者が「あいつが先に、俺に意地悪をした」と訴える事がよくあります。そんな場合、決まってきっかけの多くが誤解から発生しています。当然、子供たちは経験が未熟なため、相手の行動の受け止め方を誤る場合がよくあります。でも時には衝突しながらも“相手にも言い分がある事”や“人によって物事の捉え方が違う事”を学んでいき、想像力を膨らます材料を手にしながら、徐々に子供社会の中で友達関係を築く力を伸ばしていくのかも知れません。

学校でも、ご家庭でも子供たちは、将来、社会に出た時に円滑な人間関係が築けるように様々な力を日々育まれているかと思いますが、当事業においても、そんな子供たちの育ちを応援したいと考えております。もし、全ての子供たちに想像力がしっかりと育まれていけば、将来、子供たちが大人になった時には「あおり運転」なんて言葉が死語になっているかもしれませんね。

願わくは全ての車が自動運転車になる前に・・・。

放課後事業課 課長 中尾篤也

